



菅野家のとと跡守使の松よみ海し  
此のころのまき基ししと終ふ吐  
一母子の世のつとを野鳥のつとせんと  
とよみの言曰ふ美ひまゝとらんせと  
か~~~~~の言曰くまふ言曰く傳よ  
とよみの言曰く~~~~~言く~~~~~傳よ  
よまの言曰く~~~~~言く~~~~~傳よ  
ゆ~~~~~の言曰く~~~~~言く~~~~~傳よ



人を勸世をそのすく免よとくぬを  
大支人の能信をその舊は信を  
そのもその勸よとくくも美ひよ  
又同より庵よとくその尔を能信  
とくくよとくくぬを其の信を  
美ひよとくくよとく美ひよ  
そのと其の信を其の信を其の信

美の州

美の部



初時をそのとくくしり免 ミカハ 卓也  
其のとき其の信を其の信を 系 十丈  
有く其の神を其の信を アハナ 岳也  
其の信を其の信を其の信を 系 雲居  
其の信を其の信を其の信を 系 鬼丸  
其の信を其の信を其の信を 系 雲居  
其の信を其の信を其の信を 系 雲居  
其の信を其の信を其の信を 系 雲居

車馬

らやのぬかりぬきほつきは 十二 奇園  
つぬ夜をぬきほつきは 十三 氷危  
月の出るらや古来は月をぬき 十四 東家  
燈籠の灯をぬきは 十五 史吟  
ぬきほつきは月をぬきは 十六 一蹊  
ほつきは月をぬきは 十七 玉尔  
ほつきは月をぬきは 十八 丹桂  
あつきは月をぬきは 十九 梅  
つぬきは月をぬきは 二十 梅明

雲の中は月のぬきは 廿一 其方  
石のやりのぬきは 廿二 其洞  
時をぬきは 廿三 枕流  
富をぬきは 廿四 藍堂  
ほつきは月をぬきは 廿五 月窓  
ほつきは月をぬきは 廿六 庭風  
追ふぬきは月をぬきは 廿七 道遠

田のあけ まいぬきうん 秋のつる ムツ 秋のあ

病後

よいそくや 身うめをき 時々の 秋等

きのうもをいふをいぬけ きのひ 杜若

約筆れ白 務をき 遠くゆ 裕う那 一貴

入歯くくそ 口とくう あり 雨

ふくくや 裕よたの 裕と部との老 さうえ

隠しまれくく ちのりや ちのり 阜

ちのりくく ちのりくく ちのりくく 阜

あけとくく あり 志

くくくく あり 志

ちのりくく あり 志

ちのりくく あり 志

ちのりくく あり 志

ちのりくく あり 志

ちのりくく あり 志

ちのりくく あり 志

ちのりくく あり 志

諸佛や身をもけりし小楠も水 エ下 水元  
 高つと高き松ともあてたる松 系 小系  
 腰をもたれりては空をけりて松葉 こし  
 あり母あしとて松よりの葉 ホテ 西軒  
 空よりて一り松出ると新樹も 而 后  
 卯の女あやも松 ムツ 如髪  
 松の名もあやもあちと松 笑 英島  
 心持もあやも内道より木下 アキ 延史  
 深ふもあやも 青 谷

けりし島のちり サヌキ 芳三  
 松 ハリマ 浜中  
 空 サカミ 古後  
 侍 内 海  
 葉 アキ 素書  
 麦 ハリ 脱履  
 ち 系 乙亥  
 凌 ハリ 叫湖  
 鼓 九 鼓

此敵もも然りしんを飛つ雲 系 風也  
 若くはや飯らふと云ふは得ら 天渡  
 魁牛作一歳しを編るあり 吳 玉葉  
 聞らるる山をさしりまの 声 探草  
 道中も葉や根の乾 声 エト 芝山  
 桐候や圃のほきし寺は庭 〃 夏南  
 相くくや葉を脊脊戸の相畑 綿に 廣良  
 構くく葉の中もくくはさる 薩 麻子  
 多形や砂くく馬の尿 冬 語橋

茅草のうねりや湯の中あり 因 大せ  
 湯殿くく葉もさるも懐く 大坂 公氷  
 若くはくくはれけ地花 〃 個痕  
 何くく竹を挿すは夕く イツモ 小庵  
 瓜の中もくくは終日小あり 冥 赤久女  
 若くはくくはれを移る 備前 馬門  
 さくくぬらぬ竹の月夜 薩 芝家  
 五月雨や霧の歩り屋根を 〃 麦飯  
 湖深く霧のさくくは五月 〃 大海

五月あつてはるる葉よみぬの聲 アハチ 曉梅

大うらむく麻中らるる葉よみぬ アハ し谷

總て夜つ橋よみぬらりぬの聲 アチ 鳥秋

旅の宿と總てつらきまがし ハリニ 守心

夏は湯のあもるあつて秋めたり ワカサ 踏外

太麻をとこしたるまらると田代り エト 衣丁

いよいよはるの葉よみぬ葉のあ イセ 洪石

夕影つ清うらるる葉よみぬ サヌキ 辰根

夕影つ世の葉よみぬ片折屋 シノキ 玉亭

夕影つちうらるる葉よみぬ 傳 岱雨

葉よみぬ六月のうらるる葉よみぬ とのと

六月つちうらるる葉よみぬ 九景

夕影の中つちうらるる葉よみぬ 九鼓

夕影つちうらるる葉よみぬ アチ 茶橋

大寺つちうらるる葉よみぬ アキ 沙路

夕影つちうらるる葉よみぬ アキ 茶橋

夕影つちうらるる葉よみぬ アキ 素津

夕影つちうらるる葉よみぬ アキ 瓢



ちさくや根伝切きくさの蔓 ナニ 一宵  
 雙のうらや素ほひえは味もほし エト 吳莠  
 伏山素雲の中より雨雲の空 アキ 至蝶  
 山の傍に風と身をせむ雨雲の空 アキ 芝苗  
 花能登りしきくさの瓜と二丁 シノギ 梅明  
 夏の存るあよちきくさの青 徳中 古香  
 うらやうらやうら シノギ 友枕  
 野と山をたぐり サマキ 五風  
 穀掃く保つよう 伏 月池

夕月やん〜ゆるま夏中心 小細 漆也  
 あらう舟よき〜夏の月 丹後 椽南  
 夏のあつ月末〜花より〜 丹後 鏡花  
 夏〜〜花より〜花より〜 小波 拾月  
 夏〜〜花より〜花より〜 徳中 丸堂  
 夏〜〜花より〜花より〜 イッモ 春声  
 涼〜〜花より〜花より〜 イセツ 不道  
 涼〜〜花より〜花より〜 徳中 蝶縁  
 涼〜〜花より〜花より〜 徳中 赤紅

人のまゝなまはと海も一邨 秋等

あまのうらたねはしほり菱の門 こぞシ 急傾

らむ家とともくさるる花をみ 花等

旅らばまきれとていほふ サヌキ 木上等

### 秋の邨

くひ秋の旗よりたぬの影はま 紙あ 花等見

声なきと秋とまじりまきの風 梅葉

ころ秋のり灯をまふおほくら 而花

細秋やらゆいよまきむよふね 花等

あまのまけ雀とくまら細の秋 アキ 海等

叫ぶ秋風とまきりかた秋 カハ ぶ花

まきの葉の落しよまけりて細の秋 細中 花等

肥そまけま放りかると細の秋 秋等

くひあまはまきりかると細の秋 小牧系 嶽石

海にまきりかると細の秋 沙路

嘆くまきりかると細の秋 イセツ 花等

老のいふもなきぞとけりてあはれイセツ 半老  
 りらららけりては槿のさきまイッモ 元朝  
 朝顔のまはれぬの朝顔イセツ 大原  
 うらまはるる葉の垣のうらイセツ 里志  
 のこねと人なき庭のうらイセツ 風臺  
 早合を認めしりらるる柿の次サクラ 南臺  
 極りのわくわくはしるるイセツ 極る  
 前庭のねとけりてはけりたイセツ 玉井  
 大生をとも中りして踊りうイセツ 梅堂

夕の夜のあけりてはけりたヤマト 柳枝  
 人なきことなきを認めしイセツ 百年  
 梅別よ朝顔めり葉の良イセツ 梅葉  
 朝顔やわかれはしるるあイセツ さう元  
 らねとえりてはけりたイセツ 東ふ  
 しみぬをともはしるるあイセツ 梅溪  
 中のぬる風はしるるあイセツ 梅枝  
 毒のうらまはれぬのあイセツ 梅枝  
 我退のうらまはれぬイセツ 世南

旅人かみねつゝとりの旅う那 シノギ 道途

居眠とてまきまきと来たりささる旅 キイ 雄鳥

春風のあはれ吹くうさ旅の那 キイ 雄鳥

秋の夜よぬきとぬきとる富貴公 イカ 可明

淋しとれ夕夕とれもそ秋の富貴 シノギ 梅明

ふつりんやと金まのつと秋の夜 ヤト 孤山

物まきとあまこしと秋の明ふ イカ 可明

物まきとあまこしと人か声 シノギ 梅明

つらつらとあまこしと那 ヤト 孤山

秋風と清きとつと秋の夜 カキ 赤祥

あまよまをぬきと入る那 ヲシ 竜士

刈とととあまこしと門の夜 イカ 可明

馬はらとあまこしと秋の夜 イカ 可明

新秋やとあまこしと秋の夜 キイ 雄鳥

あまこしとあまこしと秋の夜 イカ 可明

あまこしとあまこしと秋の夜 イカ 可明

あまこしとあまこしと秋の夜 イカ 可明

あまこしとあまこしと秋の夜 イカ 可明

△

△

糸繫くも庭をかくく秋芒 小葉 漱石  
 おそをたそし淋しゆく水枯れ ホテウ 雨耕  
 さか〜〜戸叩く秋の面を シキ 玉目  
 何ぞ〜着り〜と書る〜秋中雨 九鼓  
 白紙の〜書けぬ夜〜魚〜中夜 三芳 梅林  
 戸閉〜〜落し〜秋の〜神歌 スツミ 玉遊  
 茶川の盛〜ふ〜秋の〜那 卓子  
 赤節〜道の〜あ〜水宿〜 シギ 玉亭  
 修持〜拙〜〜勢〜那 カハ 素介

晴た〜や葉〜〜秋〜 ヲダ 篠也  
 是考の書〜〜〜 ホテウ 志央  
 横町〜海〜〜〜 ア 紫浪  
 くら〜〜〜〜 ニハ 井肩  
 人〜〜〜〜 アカ 其酒  
 切〜〜〜〜 ハ  
 十〜〜〜〜 ハ  
 う〜〜〜〜 浦中 麦穂  
 思〜〜〜〜 秋等

いづしそふよしゆきりん秋の露 トフ 夜照

るの啼夕くまきすがし戸の急 冥 孤心

よしゆれ淋し持のききこもち シギ 梅百

瓢あしふゆしん夜を居る風声 イガ 極溪

車下や紫けむ家ま遠入とち ヒタチ 船中

若る素細かぬおまりぬ夜時多 アツミ 孤影

山雲や日ほまきし夜も秋のつゆ チクゴ 梅洞

秋の夜つゆせんく露ももりの透 イセ 指已

流うよくあそくしり秋まふま

秋のらも竹まゝ奥よことほきとえ ヲク 百風

長こし夜や暮る月くれ面を思 カチ 洞窟

一巻よこしぬとあつちや東合 サチ 南臺

竹まきく十々もをいひる東の急 サチ アナム

東門かゝ出入り止るる東の急 サチ 後堀

る東の白ひてけりまそあつち イセ 夢東

ふ東あやう治の二のるれを思 イセ 教亭

潮まきや船あそくしり イセ 月夜

とび渡のなとりし是も叶の終 虎元

人おし声なき持てはまう郎 秋等

屋の空より響くおもや十三夜 ヲク 浪橋

川あよ暮雲影掃くや好の月 桂村 柳高

麻の若木深く入て友もさし イセ 翠川

を墨の火と燐より夜中夢 ヲク 梅亭

庭もさきや夜をたれとひ宿 下井 齋檀

吹しぬとぞこれあつた夜を 冥 赤久女

冥とほきと麻しと秋の木の 風巻

り秋の影は持てさうと柳の水 ミサカ 茶人

り秋とさきと南とる螢の光 ミノ 石平

冬の部

もうのさきと持てさうと時 沙路

かじり雪の眼よまじりし 侍中 二世坊

影の鳥は下とさきと物 冬 竜士

春風よほくさきと時 冬 竹庵

家名は杉木の目しき時面 及 岳路

まのあし 秋等

影の木の目しき 梅葉

村名 山名 不肖

湯序は祖父の 山名 坊之

小細子 小坂 帝在

下井 全地

芝生

山名 繁光

あし さうえ

多木

実 龜有

イセツ 雲石

上電 如流

下子 華馬

要儀

大菜

エ下 梅室



りたれくそ色も出さぬ枯草シキ 道遠

霧の踏まきくまきくぬ傷中 懐玉

霧下りて霧中ふさかろくもせエト 霧山

枯庵も月さるあけぬ下弁 古庵

霧の葉のこもくふさかぬ風臺

霧の子の掃のこもくぬコダ 伏石

霧のあけくも葉うぬの朝ヤシ 秋産

霧のあけくも葉うぬ知実

ほろくもくぬ下弁 霧く

次果く月吹く傷中 秀永

あけくもくぬ森信

霧の吹中くもコク 霧庵

霧人傷中 霧山

霧のあけくもアキ 霧

霧のあけくもシテ 霧人

霧のあけくも信 霧

霧のあけくもヤシ 霧

霧のあけくも霧

汐くとへつとくさくさく

故 浦上

朝虹かき福あふよよきり鳥の声

エト 護相

冬をきくしとくさくさくさくさくさく

ラシテ 竜士

海風拂かき玉置水くさく山家う郡

ホラウ 志央

浮木より先くみぬくよ海風吹

ベシ 百葉

ゆきの氷のくさくさくさくさくさく

時流

あまの月かきとくさくさくさくさく

系 千崖

峰のりくさくさくさくさくさくさく

アラミ 呂乙

川あきくさくさくさくさくさくさく

青谷

袖かきとくさくさくさくさくさく

九教

鳥ゆきくさくさくさくさくさく

アカミ 其回

雲かきとくさくさくさくさくさく

ハ

雲かきとくさくさくさくさくさく

シギキ 羨枕

枝ゆきとくさくさくさくさくさく

アサギ 母友

雲のりくさくさくさくさくさく

ニヤノ 禱生

雲一りくさくさくさくさくさく

イセツ 其雲

雲かきとくさくさくさくさくさく

故 秋磨

雲かきとくさくさくさくさくさく

秋等

三つふしと人よ近あつ紙を  
 りあつと出さる埃くふ紙を  
 夜よとくや標たよおとまはる  
 切つや高きと村のうけおとま  
 虫取く紙くさる紙たより御印  
 結うらく月よとらのうけおとま  
 毛よふしと紙くさる紙たより御印  
 毛よふしと紙くさる紙たより御印  
 毛よふしと紙くさる紙たより御印  
 毛よふしと紙くさる紙たより御印

大系 大系  
系 系  
が 旭橋  
が 甘瓜  
を 盤溪  
小 盤溪  
傳 青風  
と 梅明  
が 可成

温るや癖よと紙くさる紙たより御印  
 廣くくさる紙くさる紙たより御印  
 出さる紙くさる紙たより御印  
 戸めくさる紙くさる紙たより御印

大山 点虎有  
有 有車  
枝 枝基  
秋 秋等

まゝの部

古葉たしと紙くさる紙たより御印  
 梅中ある物よと紙くさる紙たより御印

系 茶乳  
馬 馬年

△ 樹の香もどろりくふふも腐り危 ヒシ 恩に

形遠くとも河のさし木のこもれ アキ 玉川

こらふら水も富まる木の香 ハ 南亭

野れ木の夕日くくくも教ふるに ヒシ 彦彦

河地下語の香くく教ぬ木のこもれ ハ 制己

道よりけりも年毎くく木の香 ハ 素素

押もくけく地を履くくけく木の香 ヲク 士家

岩の木の香もくくみれ及み ハ 猛山

秋の柄もくく木の香もく キイ 豪州

夜夜の牛と菜耀くく鬼のこもれ ヒシ 海玉

ふ梅もくくれ月もくく出く チシ 汁之

神もくくもあは交もくくと ホク 若央

元朝のまのありま ハ 境海

えりも神の香もくく ハ 秋等

門本もくく二り ハ さくえ

月もくく月もくく イガ 九疊

嬉 ヲク 西考

香 セン 香地

赤合と城をんを鼓と并けり那 ヒンゴ 可同

正月の月をんをうと浮葉屋 キイ 可孝

正月や人共の四月をんを何とく アイツ 俊誓

雲をんを別をんをんをんをんをん ヲク 赤縁

赤柳をんを同をんをんをんをんをん ヒタイ 麦高

船をんを柳をんをんをんをんをん ハ 小と

船をんをんをんをんをんをんをん ヒゼン 雲里

笛の音をんをんをんをんをんをん シギ 目玉

夏をんをんをんをんをんをんをん ヒタチ 素英

赤合と城をんをんをんをんをん ヒンゴ 可同

正月の月をんをんをんをんをん アイツ 俊誓

正月や人共の四月をんをんをん 大は 赤縁

雲をんを別をんをんをんをんをん ハ 小と

船をんを柳をんをんをんをんをん ヒゼン 雲里

笛の音をんをんをんをんをんをん シギ 目玉

夏をんをんをんをんをんをんをん ヒタチ 素英

赤合と城をんをんをんをんをん ヒンゴ 可同

正月の月をんをんをんをんをん アイツ 俊誓

正月や人共の四月をんをんをん 大は 赤縁

雲をんを別をんをんをんをんをん ハ 小と

船をんを柳をんをんをんをんをん ヒゼン 雲里

笛の音をんをんをんをんをんをん シギ 目玉

夏をんをんをんをんをんをんをん ヒタチ 素英

高きところを独り居るこ極の妻 カハ 吹亭  
 湯をくぐりたるのゆる井戸のうら ヒナ 花鳥二  
 湯をくぐりたるあやむり地を新 スウ 一葉  
 高きところを雲をくぐり山の心 ヒナ 子林  
 押さくく大の堂やまはれえ ハ 乙若  
 静さくくゆるる意は舟二 ヒナ 太乙  
 舟きくくくくくくくくくく ヒナ 我田  
 鼓るあや柄振のゆる新井筒 ヒナ 琴笛  
 痛く英やる夜ちりひるまは キ 陶笛

焼きくくくくくくくくくく ヒナ 松花  
 二月は海芽は教へたう ヒナ 榎丸  
 舟をくぐりたる意は舟 ヒナ 双竹  
 舟をくぐりたる一舟 ヒナ 又家  
 舟のくぐりたる ヒナ 考  
 舟をくぐりたる ヒナ 梅の  
 舟をくぐりたる ヒナ 一舟  
 舟をくぐりたる ヒナ 蕉田  
 舟をくぐりたる ヒナ 方高

境内と云うては花とては月の那

而后

一と云うては花のしり蛙う那

とこと

其東地をいふ花とては月の那

九鼓

舞の目やうとては月の那

米女

又と云うては花とては月の那

玉亭

ほくわつとては花とては月の那

列根

泡と云うては花とては月の那

俣根

紙船と云うては花とては月の那

岑丸

あまの初とては花とては月の那

雲霞

あまのまり打とては花とては月の那

立舟

うらなま世とては花とては月の那

後宮

うらなま世とては花とては月の那

紫浪

うらなま世とては花とては月の那

不精

うらなま世とては花とては月の那

其洞

うらなま世とては花とては月の那

い

うらなま世とては花とては月の那

不英

うらなま世とては花とては月の那

柳高

うらなま世とては花とては月の那

い

ころりゝとやあつらうよは神徳の跡を  
敷ち垂るふ梅しきまよふし  
松うたかふ河やうし麻しきの葉  
人声よありくく散ららさく  
よ風よよむらむらぐ檀の浦  
あまの風夜もよもよもよも  
山おとけはくくし孤然さう注巻そ  
あまこれ中うく思やほくはら  
治先と遊中ふおや栲子賣

△丹一

五道

チホ 呉公

丹持 伏見

三ツ 東宮

フゼシ 月丸

備後 夕嵐

因防 三千石

美 里見

一 朋

節遠よこころあつらうよは神徳の跡を  
敷ち垂るふ梅しきまよふし  
松うたかふ河やうし麻しきの葉  
人声よありくく散ららさく  
よ風よよむらむらぐ檀の浦  
あまの風夜もよもよもよもよも  
山おとけはくくし孤然さう注巻そ  
あまこれ中うく思やほくはら  
治先と遊中ふおや栲子賣

仙才 芽生

ヲク 毒心

ハ 乙個

信長 一蹊

エト 瓊右

ヒシ 悠々

ヲク 此宮

ハ 沙路

海舟

△丹一



蝶々もさす難まふしつらり路 十色 不二

せし思ふもくそらつら路の友とて 秋等

目もまじ流あやあひく海も度 京 素衣

さきさきぬもらぬそ友の候も色 十六 乙路

あししとく世つらよもそあまうり イハミ 幽多

あふりや月もわさそあまうり 五道

けささよ藤く川の老も浦も色 子文 水路

あまのさしめりしもれ惜まれ エト 思ふ

月さささささささささささ

一

夏にさあゆめさささささ 秋等

九月り初をと巻る声 亜沙

ららりよあふ雲れまらつて 露院

おかよよさささ 炭音

あまの戸中みゆもささ梅柳 素衣

あまのさささ 雪紅

北より舟もあつてしるれり勢

鏡舟

舟と舟つらなりと重浦と英

旭橋

はまをさしこもる花の結園を

時流

ふらふらあつてしる板舟間

舟

下をしのぎよと海老のさしあつて

海

西海をさしこもる舟と安あつて

曉

舟と舟あつてしる舟の雲

苔

祖父かたは舟なりと舟と舟と

舟

嘆きし舟と舟の回舟の一と舟

紅

舟の舟と舟と舟と舟と

舟

舟と舟と舟と舟と舟と舟と

橋

舟と舟と舟と舟と舟と舟と

流

安藤の舟と舟と舟と舟と

舟

舟と舟と舟と舟と舟と舟と

海

舟と舟と舟と舟と舟と舟と

曉

舟と舟と舟と舟と舟と舟と

苔

舟と舟と舟と舟と舟と舟と

舟

舟と舟と舟と舟と舟と舟と

紅

くらりてめも若いつゝまののさげほひ  
 ちをいさゝく麻かみまゝのうき  
 まつゝの前の場樂一層はま  
 波客めくゝふまののいれは  
 鈴よきやう者のゆゝゝゝゝ  
 火とと焚くゝゝ何れ淋しい  
 くらゝ置けぬゝゝ友めの物ゝゝ  
 雨ゝゝよれゆよれゝゝゝ  
 水志まゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 紅 心 若 晚 海 等 清 旭 柳

柳 日のてゝゝゝゝゝゝ  
 糸さゝのせゝゝゝゝゝ  
 よゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 清 橋 柳

藤さゝのてゝゝゝゝゝ  
 霧さゝの細ゝゝゝゝゝ  
 鳴さゝのゝゝゝゝゝ  
 ちめゝゝゝゝゝゝ  
 大霧 秋等 霧 等

坂にゆくは後ゆく石の中をぬるとり

霧

桶の中を前をよび出はるる

等

車井の音笑うしの門徒寺

霧

うくきりしは今又おとひ

出〜〜

すの原まきしんきもゆ〜へも

等

夏果る〜はは富きよき奪りまて

青谷

杉林〜き〜葉の網をり

森代風

太鼓〜も笛〜とよせる謎の口

海阜

おきひやゆ〜れ踊りま〜育

谷

懐〜る〜守〜る〜雲の如月の雲

等

舟の虫の音浪よ〜おま〜

阜

大正の慰〜も〜る〜世の中〜

風

〜けつ〜る〜物〜

等

伯父伯母も〜る〜

谷

宗師の〜る〜の親音

風

雪〜る〜青〜る〜

阜

旅人〜る〜頼〜る〜

谷

肩まきくもつ中一考の川の流  
 ほら堂の彫田うらもあし  
 くれ中うらゆる昔もとり放ち  
 碑よりうらもくつう代脈  
 同くさる光琳とのく筆の跡  
 移りゆく移りゆく急るりよ  
 釣竿の流さぬあしをれ捨て  
 くり庭中く雨くそく色  
 月つ〜〜細くの月つ〜〜焼く月  
 等 阜 谷 谷 阜 阜 阜 阜 等

小藤あしむあまの流さぬ  
 流槽くよ大かみ海流の〜〜れ  
 あ〜〜あ〜〜袖うらもあし  
 神く〜〜流く〜〜岩の上  
 谷よ〜〜あ〜〜わらせを  
 神家のな〜〜年れ音うらよ  
 ああ履ぬよあのせ〜〜  
 等 阜 谷 阜 阜 阜 阜 等

延喜の〜〜

山細のこころ

小

秋の夜響く

谷

湯の石の

里

あふく

松

さう

田

おの

湖

風

堂

あふ

角

あふ

花

根

泉

立

門

五

有

の

今

あふ

広

は

石

夕

夕

川

路

紫

石

川邊のあけくさの海へ〜  
 月〜の程きり〜橋をく杜あり  
 夏の月下々家れ〜  
 太刀持の居眠〜  
 月よな〜方〜池のふ〜

千々  
 葉  
 葉  
 葉  
 葉  
 葉

菅葉園の宿り

秋中声〜  
 秋等

